

◆『Intelligence』購読会員の皆さまへ：ニュースレターNo.3 (2012年7月号) ◆

本年5月から購読会員の皆さま限定で、ニュースレターを発行しております。この度、第3号ができあがりましたので、お届けさせていただきます。「Intelligence」会員専用ウェブサイトとあわせてご覧いただければ幸いです。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。

【6月研究会の概要：第68回】(6月23日午後2時半～6時) 司会：川崎賢子

・松本知珠「前線と銃後とー吉屋信子を中心に」：松本さんは、従軍作家たちの「ペン部隊」に女性作家として初めて参加した吉屋信子の従軍記について、神奈川近代文学館吉屋文庫所蔵の直筆の海軍従軍日記(1938年)の書き起こしなど、貴重な資料を交えて話して下さいました。

・田島奈都子「日本製プロパガンダ・ポスターに関する調査研究についてー阿智村寄託ポスターを中心として」：田島さんが調査され、今年の7月から展覧会で公開される長野県阿智村のポスターコレクション約122種類は、1938年から1945年に制作され、同村で張り出されたポスターであるが、その画像を紹介しながら当時のポスターの内容について説明しその意味を話して下さいました。

・ナンシー・スノウ「1992年から2012年までのアメリカのプロパガンダ：学者及び実務家の視点から A Scholarly and Practitioner Perspective on American Propaganda: 1992-2012」：クリントン政権下で米広報文化交流庁(USIA)に務めた経験のあるスノーさんは、9/11テロ後に米國務省が作成した、国外のムスリムを対象とした広報フィルムと、3/11地震の後に日本政府が作成してダボス会議で上映された広報フィルムとを映しながら、過去20年間の米国の広報外交の変遷と問題を話して下さいました。

※なお、研究会当日に配布されたレジュメは、会員ホームページにアップされています。

<http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html>

(閲覧は『Intelligence』の購読会員に限定されています。)

●次回7月の研究会は、7月28日(土曜日)午後2時半から5時までで、及川、宮杉、米

濱の三氏にご報告頂く予定です。8月は夏休みのため開催せず、9月は29日(土曜日)、10月は20日(土曜日)に研究会を開催する予定です。

また、ご報告御希望の方は、20世紀メディア研究所事務所までご一報下さい。
m20th@list.waseda.jp

【気になる新著や記事の紹介】[敬称略]

二〇世紀メディア研究所顧問である山本武利は、アジア歴史資料センターが公開した防衛省防衛研究所の資料の中から、陸軍中野学校創設時の教育内容を明らかにし、『読売新聞』のほか、中国紙『環球時報』でも報じられた。

編集委員の川崎賢子は共編著「久生十蘭全集」第11巻(国書刊行会)、津原泰水「蘆屋家の崩壊」解説(ちくま文庫)を執筆した。井上祐子『日清・日露戦争と写真報道—戦場を駆ける写真師たち』(吉川弘文館)、緒川直人・後藤真『写真経験の社会史—写真史料研究の出発』(岩田書院)が刊行された。

先月刊行の『新聞で見る戦時上海の文化総覧—「大陸新報」文芸文化記事細目』(ゆまに書房)は高価な大型本だが、上海租界を往来した日本人の情報が詰まっている。

【今月のコラム—長崎の資料】

長崎を訪問してきた。欧米やアジアとの歴史的繋がりを強く感じる魅力的な街である。アメリカとの繋がりでいえば、やはり原爆である。来月は原爆記念日が訪れるが、現在、長崎県立長崎図書館では、8月19日まで「原爆文学展」が開催されている。林京子、佐多稲子などの貴重資料や著書が展示され、「長崎の原爆文学」作品が紹介されている。

同図書館では、明治35年以降に長崎で発行された新聞を、原物あるいは原寸大複写の形で閲覧できる。『東洋日の出新聞』『長崎新聞』『九州日の出新聞』を閲覧してきたが、良好な資料状態に驚いた。このほか長崎歴史文化博物館では『長崎日日新聞』なども閲覧することができる。長崎と中国、朝鮮との交流史にあらためて興味をかき立てられた。

[7月15日付文責：小林聡明]